

揖斐農林事務所の普及活動状況 令和4年10月21日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■岐阜県農業大学校生 先進農家派遣学習出発式

10月3日から11月5日まで大野町出身の2年生の学生1名が、大野町のいちご生産者宅で実践的な生産・経営について学んでいる。派遣学習の初日は、大野町役場で出発式が行われ、農業普及課長、大野町農林課長から激励が送られ、学生は抱負を述べた。また、派遣先のいちご生産者から、自身の経営概要と学習に向けてのアドバイスが述べられた。学生は前年も同じ農業者宅で1週間学んでおり、更に高度で実践的な知識・技術の習得が期待される。農業普及課では、派遣期間中に農業大学校とともに訪問し、学生の学習効果が高まるよう支援していく。



【抱負を述べる学生】

■新規就農者等 「第2回揖斐地域就農支援協議会」を開催

10月3日に第2回揖斐地域就農支援会議が開催された。新規就農者に対する伴走支援実績および就農状況面談結果や、就農相談状況について情報共有を行い、課題について協議した。

新規就農者の多くは、意欲を持って真面目に農業生産に取り組んでいるものの、天候不順や病害虫等により就農計画どおりの生産・売上ができておらず、今後TACと連携しつつ個別の支援を強化していく。また、就農相談においては、資材高騰等就農開始が厳しい状況の中で、相談者の希望と現実をすり合わせ、リスク軽減を図る必要があるため、今回の協議会で支援機関が一体となり、きめの細かい支援を行う重要性について再認識を図った。



【会議の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■いちご 3町合同研修会の開催

10月19日、JAいび川担い手サポートセンターにて、3町のいちご生産組織が合同で、いちごの適切な管理を行うための研修会を開催した。研修会では、農業普及課からは、花芽検鏡の結果と今後の栽培管理、GAPの取り組みに向けて説明を行った。また、農業共済から施設園芸共済や収入保険制度について、資材メーカーから循環扇やアシストスーツ等について説明があり、実際に試着も行われた。この研修会は、揖斐地域の組合同士の連携を深める良い機会にもなった。

今年は腋花房が早めで、温度管理や肥培管理などが難しい状況であるため、農業普及課では、今後も関係機関と連携し、技術支援を継続していく。



【研修会の様子】

■茶 省エネ設備の導入

10月3日に揖斐川町の（農）桂茶生産組合において、省エネ設備導入支援事業についての説明を行った。

茶は加工における燃油の利用が多く、近年の燃油価格高騰の影響は大きい。

組合では、燃料価格のリスク分散のため、茶の粗揉機にかかる燃料を重油からガスへと変更し、茶の加工における省エネ化を図ることとなった。この取り組みにより、2割程度の燃油費の削減を目指していく。

今後も茶加工設備の充実と効率化を図るため、農業普及課では、茶の担い手の支援を行っていく。



【説明の様子】

■かき 新品種「麗玉」試験出荷

10月14日にJAいび川大野営農経済センターにて、大野町かき振興会が、新たな品種「麗玉（れいぎょく）」の試験出荷に向けた検討会を行い、生産者、JA、市場関係者らが集まった。

「麗玉」は農研機構が育成し、平成28年に品種登録された完全甘柿で、食味、着色、玉ぞろいが良く、障害果の発生も少ないという特徴があり、市場評価を検討するための試験出荷としている。

かき振興会では令和3年から導入をすすめており、「富有」や「太秋」などに次ぐ新たなブランド柿として生産販売していく予定で、生産者の期待も大きい。農業普及課も引き続きブランド化にむけ支援を進めていく。



【出荷基準の検討をする関係者】

■直売所の品目拡大 野菜栽培講習会の開催

10月18日、JAいび川担い手サポートセンターにおいて、直売所の出荷人数や出荷品目の拡大に向けた野菜栽培研修会が開催され、生産者や関係機関等、20名が参加した。

コロナ禍で9月までに計画された研修会が中止となったが、感染防止対策を講じての開催となり、農業普及課から、「野菜の土づくりについて」と題して、栽培の基本となる堆肥の投入などによる土育てのポイントを説明した。

今後も、定期的に野菜講習会が開催されるため、直売所の出荷拡大に向けて、引き続き支援を行う。



【講習会の様子】